

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 学務部学生課

申請組織長 役職名 学生課長 氏名 平野 貴之

統括責任者 役職名 学生課長補佐 氏名 武田智登世

課題名

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	武田智登世	学生課長補佐	統括
		伊藤このみ	学生課職員	学生サポーター支援担当
		河田梨佳子	学生課職員	学生サポーター支援担当

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

学生サポーターは 2016 年度から活動を開始し、当初は「ピアサポートの理論と実践」の受講者又はピアカウンセラーの有資格者によるピアサポートに限定した活動であったが、徐々に活動の場を広げ、現在では、図書館課（ライブラリーサポーター）、キャリア支援課（ピアキャリア）、国際交流センター（留学生サポーターズ）、学生課（ピアキャリア）で、それぞれの活動を行っている。学生だからこそわかりあえることがあり、誰かの悩みは、その多くがそれ以外の誰でも持ちうる悩みである。この制度は学生が企画、立案、活動を行う、いわば「学生による学生のための制度」である。学生生活に関する様々な相談、学生サポーター企画のイベントへの参加など、学生サポーターを中心とした「学生による学生のためのサポート活動」である。2022 年度後期より、コロナ以前の活動を再開し、今年度は昨年度の経験を活かし、さらに促進する活動を展開していく。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

本事業は、学生サポーターのうち、ピアカフェの活動支援を対象としている。ピアカフェは、主に新生が大学生活に慣れるためのフォローや、大学内における各種イベントを、有志の学生が企画・運営立案を行い、学生課の学生支援担当者が助言をする形をとっている。学生は、授業の空き時間に集まり、数回にわたりミーティングを行い、具体的な活動内容を決めている。また最近では、学内の対面形式だけではなく、SNS を使ったミーティングを行うなど、時代にあった学生に受け入れやすい活動に改善している。今後は、学生により多様な経験の機会が与えられるよう、他大学の先進的な学生の取り組みについて見学・視察を行い、この制度を活発化し、一般学生に広く理解を深めてもらうようにする。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

学生サポーターのうち、本事業の対象である、『ピアカフェ』では、今年度は「おしゃべり相談会」「おしゃべりカフェ」「季節のイベント」「スポーツイベント」等を数回行った。

4月～5月には新入生に向けた説明会を4回行い、大学生活に慣れるためのフォローや履修登録の相談を行った。

5月、7月には、スポーツイベントとしてバドミントン大会を開催し、学部・学年を超えた参加者が一同に汗を流し、健康維持と気分転換の機会となった。

7月には毎年恒例の七夕イベントを実施し、100人以上の学生が短冊に願いを書く盛況ぶりであった。10月、12月には、それぞれハロウィンパーティー、クリスマス会を行い、季節のイベントを学内で楽しんだ。

各回の参加者はサポーターを含め10～15名程度集まり、多すぎず、少なすぎない、程よい人数で、いずれも和やかな雰囲気の中で学生同士が互いに声を掛け合いながら楽しんでいる様子が伺えた。

事業全体の成果としては、今までの先輩サポーターたちの活動を見習い、自分たちも学部・学年を超えて色々な学生と交流をしたいという思いから、企画の立案や運営を自主的に行うことで、学生による学生のための活動を実施することができた。従来は事前の打合せや準備など、対面で行うことを基本としていたため、参加が限られてしまっていたが、ここ数年はSNSなど様々な方法を活用することで、負担を軽減させながら活動を継続することができていることも工夫の一つである。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①学生が企画・主導	②学部学年を超える	③サポート	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

ピアカフェについては、今年度のメンバー17人のうち、半数以上が国際コミュニケーション学部の3年生となっており、学部や学年に大きな偏りがある。

新入生の履修相談などを、安定的に充実して実施するためには、幅広い学部学科、学年のメンバーを揃える必要がある。「学生による学生のための制度」ではあるが、今後はメンバー募集や年間の活動が安定するまで、学生課がもう少し積極的に介入し、バックアップすることも検討したい。